2025_1201「落ち葉の大学構内」日々の理科 4131 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

東京の紅葉（こうよう）の季節は年々歳々遅くなる傾向にあります。小石川植物園の紅葉が一番美しくなるのは 12 月に入ってからです。お茶の水女子大学正門のイチョウ並木も、毎年一番美しいのは 12 月中旬で、クリスマスになってもまだ葉が残っています。積雪がととんど見られなくなった東京にあって、雪の重さから枝を守る必要がなくなり、そもそも落葉しなくても良くなってきたのです。

それでも落葉広葉樹の多い大学構内です。11 月下旬から 12 月上旬には、ケヤキ、モミジ、トウカエデ、イチョウなどの木々が一斉に葉を落とすので、清掃の方々はいくら掃き掃除をしても、翌朝にはこの写真のようになってしまいます。

毎日構内を散策している子ども園の子どもたちは大喜びです。小さな子どもは地面に落ちているものに何でも興味を持ちます。たぶん大人とは全くちがう世界を見ているのでしょう。落ち葉は何よりの贈り物のようです。同じ種類の落ち葉をたくさん集めて、大切そうに持ち歩いています。

（2025 年 11 月下旬／お茶の水女子大学構内）